

岩手県金ケ崎町（国内 80 例目）の高病原性鳥インフルエンザ発生農場に係る
疫学調査チームの現地調査概要

令和 5 年 3 月 14 日に実施した現地調査により、以下のことを確認した。

1 農場の周辺環境及び農場概況

- ① 農場は内陸の平野部に位置し、周囲は水田や雑木林に囲まれている。
- ② 当該農場から約 250m の河川において、カモ類 5 羽を確認した。
- ③ 当該農場は、ウインドウレス鶏舎が 2 棟（4 鶏舎）あり、発生時はうち 1 棟（2 鶏舎）が空舎であった。各鶏舎には背中合わせの直立 5 段ケージが 2 列あり、発生鶏舎では 108 日齢の採卵用育雛鶏を飼養していた。なお、1 ケージ当たりの飼養羽数は 15 羽程度であった。
- ④ 発生鶏舎の換気は、鶏舎の平面上部から天井裏に入気し、天井裏の入気スリットを通じて、鶏舎内に空気が流れ込み、排気は鶏舎上部から排気専用ダクトを通じて屋根のモニター部から放出される構造になっていた。

2 通報までの経緯

- ① 飼養管理者によると、平均死亡羽数は 0～2 羽程度であるところ、3 月 7 日朝の健康観察時に、鶏舎後方部分の下段部分のケージで 8 羽の死亡を確認したが、コクシジウム症を疑って経過観察としたとのこと。
- ② 8 日以降も 10 羽以上の死亡が 5 日間程度続いたが、鶏舎内で死亡が点在していたことや、死亡数が急増しなかったため、引き続きコクシジウム症であると考え高病原性鳥インフルエンザは疑わなかったとのこと。しかし、出荷時期が近づいたこともあり、高病原性鳥インフルエンザを否定しておこうと考え、13 日に家畜保健衛生所に連絡したとのこと。
- ③ 通報まで、発生鶏舎以外の鶏舎では特段の異状は認められなかったとのこと。調査時、最初に異状が確認された場所の周辺で死亡鶏を確認したが、隣の鶏舎では異状は認められなかった。

3 管理者及び従業員等

- ① 飼養管理者によると、当該農場には従業員が 8 名おり、普段の飼養管理は 3 名で行い、残り 5 名は鶏舎洗浄、導入・出荷等の作業を担当していたとのこと。なお、鶏舎の飼養管理を行う 3 名は、特に鶏舎ごとの担当を定めていなかったとのこと。
- ② 飼養管理者によると、会社の管理獣医師の定期的な立ち入りはなく、最後に来場したのは令和 4 年の鳥インフルエンザのシーズン前とのことであった。

4 農場の飼養衛生管理

- ① 農場の入口は 1 箇所あり、入口には立入禁止の看板が設置されるとともに、上下左右から噴射される車両消毒ゲートが設置されていた。
- ② 飼養管理者によると、従業員は、出勤時、農場から少し離れた会社事務所に自家用車を駐車し、事務所内で作業服の着用及び長靴への履き替えを行い、社用車で

農場まで移動するとのこと。農場に到着後は、農場入口のプレハブで、農場専用の作業着及び長靴を着用し、手指や靴底の消毒を行い、衛生管理区域に入るとのこと。

- ③ 従業員が各鶏舎に入る際には、鶏舎前室に設置された高圧洗浄機で靴底の泥を落とし、踏込消毒槽で消毒を行い、鶏舎専用の長靴に履き替えていたとのこと。その後、手指の洗浄及びアルコール消毒を行い、鶏舎専用の手袋を着用後、消石灰が入った踏込消毒槽で消毒を行ってから入舎していたとのこと。
- ④ 飼養管理者によると、飼料運搬業者等の鶏舎に立ち入らない外部事業者は、入口のプレハブ内で、農場備付けの農場内専用作業着と長靴の交換のみを行っていたとのこと。また、外部事業者（導入業者、出荷業者）が鶏舎に入る際は、従業員の場合と同様の手順で入舎していたとのこと。
- ⑤ 系列農場から雛を導入しており、鶏舎ごとにオールイン・オールアウトを行っているとのこと。オールアウト後は鶏舎の洗浄・消毒を実施し、次の導入まで約45日の空舎期間を設けているとのこと。
- ⑥ 死亡鶏は、毎朝の健康観察時に鶏舎奥にまとめて保管した後、蓋つきポリバケツに入れ、週に2回程度、社用車で系列農場に運搬し、焼却炉で焼却していたとのこと。なお、系列農場に運搬後、ポリバケツは系列農場で消毒することはなく、農場に持ち帰った時点で入口にある動力噴霧器で洗浄・消毒を行っていたとのこと。
- ⑦ 鶏糞は、除糞ベルトを2～3日に一回稼働させ、自社のダンプカーに積載し、近隣にある自社の堆肥場に運搬し、発酵処理をするとのこと。
- ⑧ 鶏舎横の飼料タンク上部には蓋が設置されており、鶏舎内のラインを通じて自動給餌が行われていた。飼養鶏には消毒した井戸水を給与しているとのこと。
- ⑨ 飼養管理者によると、他農場とは、車両、重機、器材等の共用はなく、系列農場と従業員の共有も行われていないとのこと。

5 野鳥・野生動物対策

- ① 飼養管理者によると、農場敷地内でカラスやスズメを見ることがあるとのこと。また、周辺の水田には、最近までハクチョウが飛来していたとのこと。
- ② 飼養管理者によると、農場周辺でイノシシ、クマ、タヌキ、キツネ、カモシカ等が目撃されるとのこと。
- ③ ネズミ対策として、鶏舎の支柱等にネズミ返しを設置しているが、発生鶏舎を含め、農場内でネズミを目撃することはあまりないとのこと。また、ハエもほとんどいないとのこと。
- ④ 鶏舎外壁、防鳥用のネットや金網に大きな破損はなかったが、発生ケージ付近の木製外壁が破損しており、隙間を確認した。また、まとまった死亡等の異状が確認された場所の真上に位置する入気スリットの天井裏に、中型哺乳類のものと思われる糞が確認された。

(以上)